

指導教官だより

2022 多目的実習 No.17

500本のゴンガラに魂を込める! 男達!



生徒が深い眠りについている**正午過ぎ**、作業甲板に**甲板長**と数名の乗組員の姿があった。実習生が操業を終え船内に入った後も、シーアンカー収納や漁具片付けなど**遅くまで**作業していたにも関わらず**漁具整備**を行っている。「いつ寝ているのですか?眠くないですか?」と質問すると、作業する手を止め海を見つめながら甲板長が語った。「イカが釣れると実習生はみんな**喜んでくれる**。その時の笑顔が俺達の**活力源**になっている。だから、もっと沢山イカを釣らせてあげたい。そして海に係わる**仕事の楽しさ**と**素晴らしさ**を少しでも感じてもらいたい。それが俺達乗組員の**仕事**だから。」と。



甲板長(左)

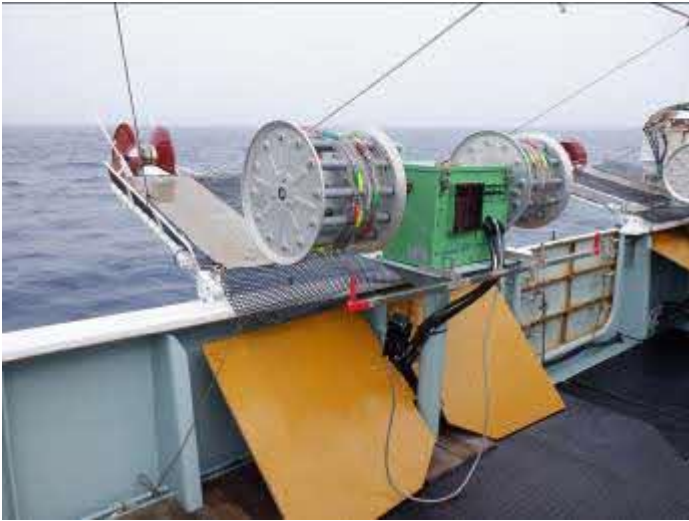
シーアンカー投入後に**専攻科1年生**は操業海域の**海洋観測**を行う。**測定器**を水深約200mまで沈め1m間隔の水温・塩分濃度を測定するほか、表面水温・透明度・水色の測定も行う。



船内掃除は実習生・乗組員で行っている。生徒区画・士官区画・部員区画など**広範囲**を毎日隅々まで**ピカピカ**にします。



1台に約70本のゴンガラが巻かれているイカロボは神海丸に6台設置されている。深さ・しゃくり・巻上げ速度など船橋の集中制御盤によって制御でき、その日の状況により船長が細かく調整している。



仕掛けを上げてみたら釣れてました



操業前ミーティング



当直(船橋)



体調測定



周田には40隻のイカ釣り船がいます



船内学習



朝食



洗濯機フル活動中



当直(制御室)

